

# 津軽藩陣屋跡と墓所跡のこと

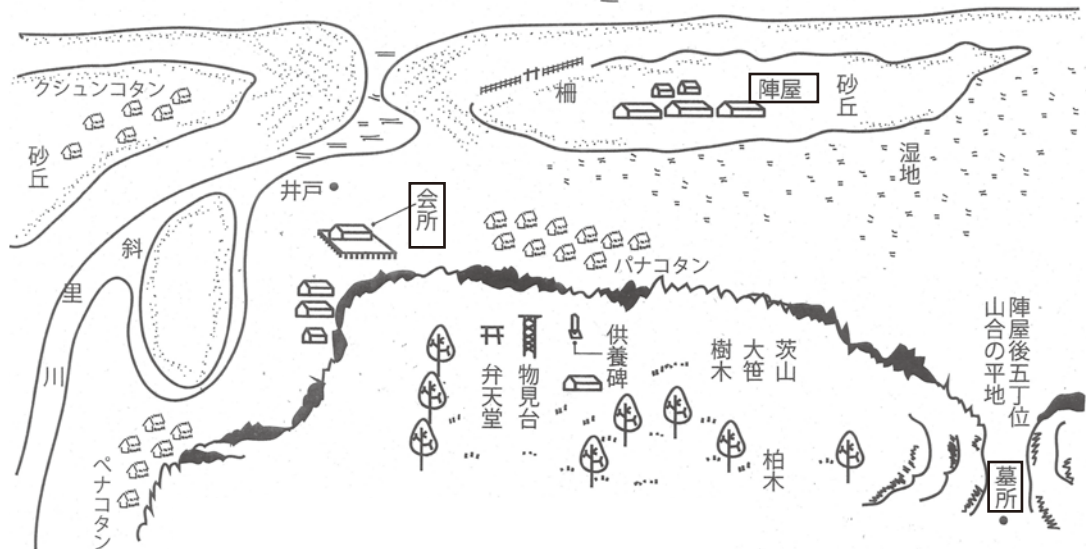


図1 斜里の津軽陣屋や会所の配置想像図

夏、華やかな山車が繰り出す、「しれとこ斜里ねぶた」は北海道の三大あんどん祭の一つとも言われ、多くの道民が知っています。また、ねぶた祭りを斜里で行うに至った経緯やその後の弘前市との交流についてもよく知られている話だと思います。ところが、江戸時代に津軽藩の斜里での拠点であった陣屋跡地や斎藤勝利(津軽藩士)らが手厚く供養した墓所跡の正確な位置は残念ながら未解明です。「陣屋跡や墓所跡は標柱や説明看板のある北廻り線沿いと町民公園内でしょ」と言われる方もおられるでしょう。多くの諸先輩が書物を調べ、この辺りだろうとした結果が現在の位置になっています。

陣屋跡と墓所跡については斎藤勝利が記した「松前詰合日記」に、いくつかのヒントが出てきます。まず、陣屋跡は、1. 当時公儀の役人が駐在していた会所(運上屋)は津軽藩の陣屋より高いところ(見上げるような場所)にある。2. 陣屋の入り口は表通り(道路)に面していて北西(樺太を見る方向)を向いている。3. 海岸の低い砂丘と高い砂丘の間に作られている。4. 高い砂丘までの距離は180m程である。5. 斜里川の水を飲水としている。6. 建物は大小合わせて5つ作られている。これらから、砂丘の低みで水辺に近く、広い場所を確保できる場所は現在の北廻り線周辺だろうと推測されます。しかし肝心な会所やその他の建造物との位置関係がはっきりしていません。せめてこれらとの距離や方角が判明していればより正確な場所が特定できたのですが。

墓所跡については明治26(1893)年の斜里他四ヶ村戸長役場文書(図2)に記録が残されています。そ



図2 津軽藩士墓所跡(津軽藩旧墓地と記載)

れを見ると町民公園内にあった旧墓地の東隣にあったようです。松前詰合日記では陣屋の後ろ5丁くらい(約550m)と記されています。ただ、今の墓所跡と陣屋跡の距離を測ると随分と短く、ありません。松前詰合日記に記された距離が正確ならば陣屋跡はもう少し北西側の、今の前浜町の魚干場周辺か、または墓所跡がもっと海から遠い場所になりそうです。(松田 功)

発行 知床博物館協力会 2015.11.25  
099-4113 北海道斜里郡斜里町本町49  
斜里町立知床博物館内  
TEL: 0152-23-1256 FAX: 0152-23-1257  
<http://shiretoko-ms.sakura.ne.jp/>